

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1471900694
法人名	社会福祉法人 心の会
事業所名	さくらの家一番館
訪問調査日	平成19年12月6日
評価確定日	平成20年1月18日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 19年 12月 14日

## 【評価実施概要】

事業所番号	第1471900694号
法人名	社会福祉法人 心の会
事業所名	さくらの家一番館
所在地	横須賀市小矢部4 - 17 - 4 (電話) 046 - 852 - 2011

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1 - 2 - 4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成19年12月7日	評価確定日	平成20年1月18日

【情報提供票より】(平成 19年 11月 9日事務所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 11年 10月 1日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8人	
職員数	13人	常勤 3人	非常勤 10人	常勤換算 7.5人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨耐火耐震構造
	2階建ての 2階と1階の一部

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	62,000 円	その他の経費(月額)	37,500 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 ・ 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

### (4) 利用者の概要 日付を入力

利用者人数	8名	男性	2名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	名		
年齢	平均 88歳	最低	79歳	最高	93歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	三輪医院・衣笠病院
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは衣笠山の公園近くの住宅地にあり、春の桜、秋の紅葉と四季折々の豊かな自然を楽しむことができます。近くには同じ法人のグループホームや障害者の施設があり、盛んに交流が図られています。介護保険制度に先駆けてモデルホームの一つとして開設された当ホームは、地域にすっかり馴染んでいます。法人やホームの理念は全職員に徹底され、充実した支援体制により利用者の多くはADLの向上が図られ、本人、家族から厚い信頼が寄せられています。法人の理念である「ノーマライゼーションの実現と在宅福祉の充実」の、基本理念がホームの運営方針に生かされ、個人の尊厳を尊重し、在宅当時の趣味や外出等がそのまま生かせるよう支援し、「顧客満足優先」の行動指針のもとに全職員が取り組んでいます。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では改善課題がなかったが、外部評価や自己評価の内容、利用者、家族の意見を踏まえて更なる改善に結びつけています。法人には評価委員会が設けられていて、評価結果や利用者のニーズをホームの運営やサービスの質の向上のために、ホーム長、管理者は積極的に取り組んでいます。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ホーム長、管理者は外部評価の意義や目的を職員(パート職含む)全員に伝え、職員全員が自己評価に参画しています。自己評価による新たな気づきや外部評価の結果をもとに、ホームの運営や新たなサービスの向上を目指しています。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>市内の運営推進会議やグループホーム協議会には積極的に参画して、各ホームの悩みや困難事例等の討議、意見交換など、他のグループホームとの交流を深めています。協議会では他グループホームとの相互訪問研修があり、参加することで自己評価やサービスの更なる向上に取り組んでいます。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族には利用者の月々の出納や日ごろの暮らしぶりを定期的に報告しています。家族会や来所の時にも近況を報告し、常に家族との交流を図っています。苦情や意見を受入れる体制が整えられており、利用者、家族との信頼関係のなかで解決されています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームは地域との関わりを積極的にもち、利用者は、買い物、散歩、道路清掃、花見、旅行、ボランティアとの交流など地域との連携により、在宅と同じように、地域で充実した暮らしができるよう支援しています。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念は単なるスローガンではなく、ホームの運営方針をとおして、管理者、職員の毎日の支援のなかに徹底されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「理念」は「職員心得」とともに管理者、職員全員が携帯し共有している。理念は運営方針をとおして具体化され、利用者のケアプランの中に反映して、実践するよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し祭りに参加したり、道路の清掃活動にも積極的参加したり、ボランティアや散歩をとおして地域の人たちと交流している。ひな祭りや節句には自分達でさくら餅などを作って近所の人達に配り、近隣の人々との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	法人には評価委員会が設けられていて、管理者も含めて自己評価することにより新たな気づきを生み、サービスの質の向上に全職員が取り組んでいる。外部評価には全員が参加してその内容を共有している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、衣笠地区内8ホーム合同で行われていて、今後の取り組みや意見交換などが行われている。グループホーム相互の悩みや困難事例を共有し解決を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム協議会では研修会が企画されていて、職員は積極的に参加して資質の向上を図っている。グループホーム同士の相互の訪問研修などがあり、他ホームとの交流をとおして良いところをサービスの向上に役立てている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月利用者の出納は家族に報告し、更に家族が来所した時に確認している。ホームでの生活や活動状況なども報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や家族の訪問時に利用者の状況等説明し、家族からも意見や意向を聞き、ホームの運営に反映するようにしている。家族会からリビングのソファの安全カバーの提案があり改善した例もある。重要事項説明書には苦情相談窓口が明記され、苦情受付箱も備えている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	近くには同じ法人のグループホームがあり、日ごろ合同の行事などとおして職員と利用者が馴染むようにし、緊急に備え利用者への不安を最小限にするようにしている。日常においてはフリーの職員がいて不測の事態に対応できるようにしている、		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は外部研修には積極的に参加し、職員(パート含む)は法人の年間研修計画に参加して、参加者は研修結果をミーティングや回覧で全員が共有している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム協議会に加入し、協議会で企画している研修会には積極的に参加しサービスの質の向上を図っている。研修をとおして他法人の同業者との交流、連携を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者が安心して入居できるように、事前に見学したり、面談などとおして納得いくよう対応している。他の利用者とも早く馴染めるよう職員は支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者と一緒に暮らす同士として、利用者一人ひとりの懐かしい昔話や苦労話し、外出した時の驚いたことなど利用者と共に感じ、支えあえる関係に努めている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時やケアプラン作成時に、本人や家族より希望や意向を聞き出している。困難な方の場合も態度やしぐさ、表情から思いや意向を把握するよう努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族の訪問時に利用者の状況等説明し、家族からも意見や意向を聞き、必要に応じて医師、看護師からもアドバイスを受け、介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は、一年設定、あるいは3ヶ月毎に見直しを行っている。毎月の会議でもサービス内容の評価をし、付け足し、サービスの終了を検討している。入院等大きな状況の変化があったときは、その都度見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所のある建物の1階にデイサービスを併設しており、利用者の要望に応じて外出行事、イベント等に参加できるように支援している。法人のグループホームが近隣に他に2ヶ所あり、相互交流が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	永年にわたり提携の医療機関との関係が築かれている。月1～2回は利用者希望のかかりつけ医の往診あるいは受診があり、支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する事業所の考え方が契約書に明記されている。家族と終末期のあり方について確認を行い、急変時の対応確認書に記入してもらい、職員間においてその方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛けや対応の適正表現については会議で話し合っている。記録する場合はイニシャルで行うよう配慮している。個人記録類は台所の一角が事務室になっており台所に鍵をかけることにより保管、管理している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は一人ひとりのペースを尊重し、その日にしたいことができるような支援を心がけている。訪問時、散歩する方、リビングでくつろぐ方、入浴する方など思い思いに過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ、盛り付け、食器拭き等一人ひとりの役割や能力に応じ、職員がお手本を見せながら利用者が戸惑わないよう支援している。利用者同士が和気あいあいと行っている。食事は職員も同席し、会話を楽しみながら行い、利用者をさりげなくサポートしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっておらず、その日の利用者の希望や体調に合わせて入浴を行っている。同性介助を望む方にも柔軟に対応している。浴室の窓から植物が眺められ利用者の目を楽しませている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力を生かした役割や仕事の場面作り(食事の準備、掃除、洗濯物干し等)を行っている。法人の他サービスの企画、法人のグループホーム全体の企画、ホーム独自の企画など外の行事やレクリエーションが大変充実している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの体調、体力に合わせた散歩を行っている。散歩は利用者、職員1対1で対応している。週に一度は買い物ドライブ、月に一度はミニドライブに出かけられるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけていない。階下に降りる階段の扉には利用者の安全確保のため簡易な鍵をかけ配慮している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練の年間計画を立てている。消防署の協力の下消防車も出動した本格的な訓練も行っている。地域の人々にも参加してもらい炊き出しのおにぎりを一緒に作ってもらう等地域との協力関係がつけられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が栄養バランス、カロリーを考慮した献立を作成している。利用者の状態に合わせ普通食、ミキサー食等配慮している。必要のある方は水分摂取量チェックをして健康維持に努めている。10時のお茶にプルーンなどが提供されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングやコの字形の廊下はとても日当たりが良く明るい。日差しが眩しい時はカーテンで調整している。壁にクリスマスのパッチワークやサンタ人形が飾られ、玄関に並んだ観葉植物の中にもポインセチアがあり季節感を出していた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や鏡台、テレビ等が持ち込まれている。荷物等は作り付けの戸棚に収納されている。		



# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人 心の会
(ユニット名)	さくらの家一番館
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横須賀市小矢部4 - 17 - 4
記入者名 (管理者)	海宝 留美子
記入日	平成 19 年 11 月 5 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		個人の尊重・人生の充実温かく家庭的で人生を楽しむ事のお手伝いを目指す。という法人の理念は、その人らしい暮らしを支えていく理想的な理念であると思っています。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		理念である人生の充実・個人の尊重...に基づいたケアプランを立てて、それを元に日々支援を行っています。理念の書かれたパウチされた携帯証を職員は皆持っています。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		来訪者の目にとまるところ(玄関・リビング等)に理念の書いてある額をおいています。法人発行のたよりにご利用者様の楽しい暮らしぶりを写真を載せて紹介、家族や地域に配布しています。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		階下の一部屋を地域の方々の交流(集会・マージャン等)に利用して頂いています。散歩や外出等の出会い時に挨拶や軽い会話をして親しくなれるよう心掛けています。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		自治会に入っていて、道路の清掃活動に参加しています。クリスマスには近くの教会の方々が歌を聞かせに来て下さいます。地元のボランティアの会の方々がいろいろなレクリエーション行事に協力して下さいます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	月曜～金曜日にデイサービスを行っています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善点や努力すべき事を認識しよりよいグループホームを目指すために自己評価や外部評価を実施するという意義を理解しています。自己評価の項目で出来ていない所や改善すべき所を知り、会議で検討し改善に取り組んでいます。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、それぞれの事業所を訪問し、そこで職員と行政・包括・民生委員・グループホーム間で情報交換や事例検討等を行い、サービスの向上に生かしています。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	当グループホームの運営部長は、横須賀市グループホーム連絡協議会の顧問をしています、当ホームも今年は会計役員をさせて頂き、横須賀市のグループホームのサービスの質の向上に協力しています。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、フロア会議の中で、研修報告をして、権利擁護や成年後見制度の知識の共有・向上に努めています。当法人の全体会議で行政書司を招き、成年後見制度の勉強会をしています。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は入居者に対する虐待を行わないよう誓約書を法人本部に提出しています。研修に参加した職員は会議で研修内容の報告を行い虐待がないように周知徹底しています。法人本部からの通達などでも虐待防止に努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居日に契約書と重要事項説明書を家族と読み合わせし、質問に答え納得してサインを記入して頂いています。解約する時にも相談して頂き、今後の不安が起きないようにアドバイスをしています。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様が意見を言い易いような職員の姿勢を常に心掛け苦情や訴えについては会議で検討し改善に向け取り組んでいます。苦情相談機関のポスターを玄関内に掲示、重要事項説明書にも載せてあり、読んで契約時に説明しています。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書を送付する時に前月の生活状況(レクリエーション参加状況・健康状態等記入したもの)、お小遣い帳の1月分のコピーを同封しています。職員の移動については面会の時に自己紹介をしています。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書や、玄関入り口に相談や苦情の窓口が明記されており、契約時や家族会で説明し、意見などがあった時は会議にて検討し運営に反映させている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングの時間やフロア会議にて、意見や提案を聞き検討、業務に反映しています。法人全体では、職員の意見を聞く「あり方検討会」を3ヶ月に1回行っています。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	毎日3名の職員の他に、状況や要望に応じられるようにフリー勤務(管理者)を法人にて規定されています。早勤務については利用者様の状態に合わせて出勤時間の調整をしています。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	さくらの家では、5ユニットあるので必要最小限の異動は行われます。それは、どのユニットも近くにあり、緊急事態に備へ、各々のご利用者様を知る上で2~3年位の間隔で、ご利用者様のダメージを与えぬように配慮して行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員からの自発的な希望にそって、研修に参加できるようになっています。必要な研修については、本部から参加への要請があり、勉強の機会を与えられています。パートの方にも年1回以上の研修への参加の機会が設けられており、スキルアップにつながるようにしています。内部研修も充実しています。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入していて、グループホーム間での交換研修を行っています。役員をしているので、毎月の定例会で情報交換をしてサービスの向上に役立てています。近くにある“グループホームゆりの花”等と交流をしています。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	5ユニットの運営を行っている事業体なので、管理者や責任者との意見交換を、常勤会議や食事会などで行なっています。個々に起きる問題を個別に援助し、軽減する工夫をしています。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者は職員の努力、実績、勤務状況について運営部長に報告をしています。働きやすい職場の雰囲気づくりを心掛けています。研修を受ける機会を多くするため本部事務から研修案内が沢山配布されています。研修参加は記録しています		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居申し込みを受け家庭訪問をさせて頂いた時に、ご本人のお話を聞くようにしています。また差し支えない範囲でご本人の部屋を拝見し、不安な事は解消に努め、願いがあれば実現できるよう努力する等伝えています。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族からの電話や来訪等の時にお話をよく聞いて、ご家族の安心できる支援に向けて努力して行く旨お話をしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族からの相談を受けた場合には、入居希望に至った状況を聞き、当ホームにて対応できない場合には、他のホームへの紹介等をし、その人にとって良い方向に活用して頂く様に努めています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人入居前に見学に来て頂いたり、家庭訪問時に不安を解消できるように説明をしています。入居時の紹介を入居者様がリビングに集まっている時に行って、皆様に馴染める様にしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	英語が堪能な方に時々教えて頂くことや、わからない漢字を聞くこともあり、ケアされるケアを心掛けています。懐かしい昔の生活や職業等のお話に耳を傾け、精神面の満足・安定・穏やかさ等を得られるようにしています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	精神的に不安な様子がある時にはご家族に電話を掛けて会話を通して安心して頂くようにしています。ご家族に面会や外出・外泊の機会を無理のないように働きかけご家族との絆を大切にしています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	どのご家族もご利用者様に愛情を持って面会に来て頂いている事を感じています。現状皆様よい関係が保たれていると思います。継続して頂けます様、職員も温かい支援を心掛けています。誕生会にご家族を招待・家族会で家族と一緒に昼食を食べる等実施しています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会いたいと思っている人や、行きたいと思う場所があると訴えて来られた時には、実現に向けて可能な限り支援していきたいと思っています。手紙や電話、面会等に制限はしていません。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う人と会話ができるように、座る位置を配慮しています。その反対に重度認知症の方の行動への非難の言葉が少しでも軽減できるような配慮も心掛けております。みんなで楽しめるレクリエーションを実施しています		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病院に入院し退去した方にもお見舞いに行き行って状況を記録しています。退去後に亡くなったとお知らせがあった時には、香典を送ったり御葬儀に参列させて頂いております。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時やケアプランを立案時に、ご家族より希望や意向を聞いています。また常日頃の会話や行動の中からも把握してケアプランに活かしています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴やサービス利用の経過を聞いています。会話の中からも聞いた情報は記録し、職員間の情報の共有が出来るようにしています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎月行うカンファレンスやフロア会議、日々の申し送りにて個々の状態の変化や異常の報告を行いケースに記録、申し送り簿にて職員間の情報共有が出来るようになっていきます。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランを作成するときには、本人や家族の希望を取入れ行っています。必要に応じて、看護師・ドクターへの相談なども行い、ケアプランの作成にあたっています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間は1年設定、7項目のケアチェック表は3か月毎にチェックしています。毎月のカンファレンスにてサービス内容の評価、付けたしや終了を行い状態の変化にあった援助を提供しています。入院や転倒等大きな状態の変化があった時には、生活援助計画の用紙を新たに作成変更しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に細かく記録するように心掛けています。日中の様子は黒字・夜間は青字・医事は赤字に分けてわかりやすく、介護計画の見直しに活かせるようになっていきます。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスを併設しており、入居前に利用していた方には、要望に応じて活用して頂いています。デイの外出行事・イベント・手工芸教室にも希望があれば参加して頂いています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要性に応じて近くの訪問マッサージの利用や、消防署に来て頂いての避難訓練に実施、折り紙のボランティアに毎月第2木曜日に来て頂いています。		中学・高校生の実習生がよく来ますが、幼稚園児や小学生とも、お互いに行き来き出来るような取り組みも検討していきたいと思っています。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望を聞いて、デイサービスの趣味活動や外出行事に参加しています。他事業者や、ケアマネジャーとも連携を密にとり意向があった時に対応できるよう情報交換をしています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの交流ができています。必要に応じた支援を協働していきたいと思っています。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1～2回かかりつけ医に往診して頂くか受診をして頂いています。長年に渡りパシフィックホスピタルとの連携が保たれています。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	汐入メンタルクリニックの医師に相談したり必要時に往診して頂いています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	月～金曜日に看護師が勤務しているため日常の健康管理や医療活用のアドバイスを頂いて支援をしています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院している方がいる時にはお見舞いに行き状態の把握と退院に向けた情報交換をしています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態が変化してきた時にご家族と話し合う場を設け、終末期のあり方について確認しています。急変時の対応確認書の記入をして頂き職員間の共有をしています。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	「出来ること・出来ないこと」については、常勤会議を行い、事業所として検討しています。かかりつけ医との話し合いも検討し、今後の変化に備えての準備を行っています。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	介護サマリー・看護サマリー・電話での問い合わせ等にて情報の交換を行って、ダメージを防ぐ事に努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>常に敬う様に心がけ、個々の訴えに傾聴し、利用者本位で物事を考えています。会議にて適正表現について話し合っています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者のニーズを尊重し、実現できるように努めている。認知症が重度化した方には、何を訴えているのか行動や言葉から観察をし、職員間で意見交換をし判断しています。「～して下さい」と言わず、「～しませんか?」と相手に決定権のある言葉掛けをしています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>起床・就寝時間は決まっていませんし、アクティビティーの参加も自由です。ご家族に電話したいと訴えがあった時には対応しています。言葉で訴える事が出来ない方の想いをしぐさや行動パターン等で理解するようにしています。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>理容については提携しているお店がありますが、利用はご本人やご家族の自由です。お化粧品やネックレス・指輪をしている方もいらっしゃいます。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>もやしひげ取り、インゲンの筋取り、大根 人参 ジャガイモ 玉葱等の皮むき、野菜を刻む、盛り付け、配膳、食器やお盆を拭く、等一人一人の好みや力を活かした支援をしています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒やタバコはのむ方がいません。ご家族からの差し入れ等は居室にて食べて頂いています。飲み物はお好きなものを飲んで頂いています。(お茶・コーヒー・紅茶・ココア・ジュース類・スポーツ飲料等)</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	高齢になり尿失禁が時々ある方でもすぐ紙パンツに変えることはせず、毎日下着を交換して頂くようにしたり、夜間のみケアパットを渡し、トイレに行った時に温かい清拭を渡しながらパット内を確認し、濡れていたら交換、朝洋服に着替える時にパットを回収する等その方にあった支援をしています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を決めてはしません。入浴はご本人の意思に合わせています。浴槽の窓近くに変わった笹が見えて、皆様喜んでいます。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	休息やお昼寝は自由にとって頂いております。状況に応じて様子を見に行く事や、室温確認等の配慮をしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来ることをして頂く機会を作って支援しています。モップがけ、食事の準備、洗濯ものを干したり、取り込んだり、たたんだりして頂いています。気晴らしを出来るように外出行事を企画し参加して頂いております。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の自己管理が出来る方が少なくなっていますが、出来る方には本人の意思で使えるように支援をしています。週1回の喫茶「さくらんぼ」に行って自分のお財布からお金を出して払う事の社会参加をしています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体力にあった散歩コースをその方に合わせた回数で実施しています。晴天時の午前中は散歩を心掛けています。週1回の買い物ドライブ・月1回のミニドライブに体調のよい方は出掛けています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	午後のお茶をしに外出ドライブの企画をしています。さくらの里デイサービス企画の外出行事に申し込んで参加されています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話機の取り扱いが出来ないため、職員が訴えがある時には対応しています。年賀状を書いて出すように支援をしています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の設定はありません。どの方の面会でも快く対応しています。リビングでご利用者の皆様と一緒に過ごされる方もいますし、居室でお茶を飲みながら会話をしている方もいます。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部の研修に参加して、正しく理解できるよう取り組んでいます。また、研修内容をフロア会議の場で報告して拘束をしないよう共通認識をしています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけていません。居室に鍵は取り付けてありません。しかし階下に降りる階段の扉には転倒防止のために簡易な鍵を取り付けてふらつきのある方が一人で降りないようにしています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	皆様の集まるリビングには必ず職員が一人いるようにして、絶えずご利用者様の所在を確認しています。職員やご利用者様がリビングから離れる時には、行き先を告げ全員の所在を把握し、連絡がとれるようにしています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	石鹸、うがい薬、義歯洗浄剤やゴキブリ取り等、居室に置く物品については個々の状態に応じて、危険を予測し設置場所を検討して置く様にしています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のため、入居者一人ひとりの能力について、会議にて対応を話し合い行っています。また、誤嚥・転倒などの勉強会・防災等の研修等へ参加をしています。トヤリハットや事故報告書を活用し、危険予測と再発防止に努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急に対する救命法を、消防署より指導いただいたり、誤嚥時の対応など看護師のもと全体での勉強会を行っています。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に防災訓練を行っています。また、年に1回は消防署に依頼して、消防車も出動して行っています。近隣の方達には、協力して頂き、炊き出しのおにぎりなどを作って頂いたり、本格的な避難訓練を行っています。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクに関しては、面会時などに状況を伝えて報告をしています。また、面会の少ないご家族には、定期的な電話や毎月の「生活状況のお知らせ」を送付して伝えていきます。危険予測をして、事故防止に努めることによって、威圧しない対応を行っています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタル測定を行い、一人ひとりの健康記録を付けて日々の変化を分かりやすいようにしています。また、入浴の際には全身チェック・生活を送る中では表情や行動変化の観察を行っています。変化のあった際には赤字でケース記録に記入、看護師・職員間にての話し合いを行い素早く対応できるよう努めています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服一覧表にて副作用や用法など目的が分かるようにしています。変更時、表の更新・申し送りでの職員への周知を行い症状の変化の確認に勤めています。記録を必ずするようにしています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	必要な方には排泄チェック表をつけ便秘予防をしています。野菜の多い食事の提供、十分な飲水量の提供を心掛けています。レクリエーションにて身体を動かす体操やゲーム・散歩等を行っています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを実施、出来ない方には自立支援を念頭に入れて必要なところだけを介助しています。義歯を使用している方は毎晩預かり洗浄剤に入れ清潔を心掛けています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立での食事の提供で、栄養バランスはよいです。こまめな水分の提供をして脱水に注意しています。毎食の食事量チェックは全員行い、必要な方は水分量チェックをして健康維持に努めています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人がマニュアルを作成しています。その時々々の流行に合わせて、研修・勉強会を行い、積極的に予防に努めています。職員は必要に応じ、手袋を使用するなど二次感染の予防に努めています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具の消毒を毎日マニュアル化(塩素消毒)し実施しています。食中毒予防の為、まな板を生ものと野菜用などに分けるなど安全管理に努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の周りに草花の鉢植えを置いて、親しみ易い雰囲気を出すようにしています。毎日の水遣り等で、近隣の人との会話の関係作りして、植物の交換等をしています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごして頂ける様にスナップ写真や手作り作品・絵画等を貼ったり、家庭用の家具を置き和やかな雰囲気を出せるようにしています。夏季は南向きの窓にすだれを掛け、季節感を出しています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで一人でゆったりとくつろいでいる方や、テーブルにて気の合う方同士で集まりお話をしている光景も見られます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具・好みの家具を持ってきて頂いてます。ミニテーブルや椅子・鏡台・テレビ等を配置して、皆様居室でゆっくり過ごされています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日中・夜間共、居室の巡回をこまめにして温度・湿度・におい等の変化に対応をしています。リビングにて皆様でレクリエーションをしていると時に、居室の窓を開けて換気をしたり、随時換気扇を回す等工夫をしています。エアコンは夏は冷やしすぎず、冬は暑すぎないようにご利用者の状況に応じて調節しています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	余り広いスペースがないので家具等を伝って移動しやすくなっています。背もたれ付の椅子・肘付のある椅子等状態に応じた椅子を準備しています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入り口に写真を貼って自室の確認が出来るようにしています。トイレにも名札を貼ってわかるようにしています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	鉢植えを外や廊下において水遣りをして頂いたり、観賞したり出来るようになっています。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)  
 さくらの家一番館では、月曜日～金曜日にデイサービス事業を行い地域の方々に利用して頂いております。外からのお客様は入居している方にお友達や話相手が増えてよい影響が得られています。外出行時は、法人のデイサービスの企画・グループホーム全体の企画・一番館の企画した内容と多くあり、ご利用者様の状態に合わせて申し込み、参加する事が出来ます。